

第26回 腫瘍センターセミナーのお知らせ

日 時 平成26年6月2日（月）18時

場 所 山梨大学医学部臨床講義棟小講義室

講義内容 「癌と血栓症」

講 演 山梨厚生病院 予防医学センター 健診課
高野勝弘先生

今回の腫瘍センターセミナーは、山梨厚生病院 予防医学センター 健診課 高野勝弘先生をお招きして「癌と血栓症」と題して講演をおこなっていただきます。ご講演の概要は「1865年にTrousseauが胃癌患者の血栓性静脈炎を報告して以来、癌に関連した血栓症は Trousseau症候群として知られている。しかし、担癌患者での実際の血栓症発症頻度や予防の是非などに関しては、あまりはっきりとしていなかった。血栓症発症の機序についても、癌細胞上での Tissue Factor 発現、癌細胞の産生物質による血小板・凝固系の活性化、DIC の関与など様々な報告が見られるが、これらに加え、担癌患者特有の特徴、すなわち、高齢、手術や chemotherapy、カテーテル留置、長期臥床、感染症の合併、などの要素もあり、いまだに混沌としている。

近年になり、担癌患者での血栓症、特に深部静脈血栓症に焦点をあてた臨床研究が数多く行われ、癌に関連する血栓症についての詳細がしだいに明らかになってきた。一例を挙げると、大規模臨床研究である RIETE study の第1報では、深部静脈血栓症 15,520名のうち癌を有する患者は 20% にのぼり (Circulation 2008; 117: 1711-1716)、その後の sub-analysis では致死的肺梗塞が担癌患者では非癌患者に比し 3.59倍多く、肺梗塞は担癌患者の最大の死亡原因であった (Thromb Res 2013; 131: 24-30)。これら臨床研究の結果をうけ、ASCO や ESMO などが近年になり 担癌患者での深部静脈血栓症 guideline を発表している (Ann Oncol 2011; 22(Suppl 6): vi85-92、J Clin Oncol 2013; 31: 2189-2204) 」

本講演では、癌に関連する血栓症の疫学、予防、治療などの諸点に関して、主に臨床研究に基づいた文献的 Review を行なっていただきます。

医師のみならず、看護師、薬剤師等、多くの医療関係者の方々に参加していただきたいと思っております。